

鹿児島県人会

「次の100年のスタート」



「明日からは次の100年のスタート」。ブラジル鹿児島県人会(園田昭憲会長)創立100周年および県人移住105周年の記念式典が、2013年10月20日午前10時半からサンパウロ(聖市)イビラブエラ区の聖州議会で開催された。母県から布袋嘉之副知事、池畠憲一県議会議長をはじめとする慶祝訪問団88人が来伯して出席。当日は県人関係者、来賓を合わせて約600人が一堂に会し、コロニア最古の県人会の100年の節目を祝つた。

鹿児島県人のブラジル移住は1908年の第1回「笠戸丸」に乗船した172人に始まり、戦前

戦後を合わせた移住者数は7081人以上。現在の県系人は推定で3万9000人を超えている

といふ。同会が州議会で周年式典を開くのは初めて。会場となつた議会議事堂に

教輝在サンパウロ日本国総領事、安部順二連邦下院議、日系団体代表らが並んでいた。バラグアイ、アルゼンチン、タイ、香港、ベトナムの県人会代表者らも出席した。

日伯両国国歌斉唱、県人開拓先漫者に対する默祷後、羽藤州議が同会場を利用する規約を読み上げ、「日伯で一番古い誕生日を祝福する」と言葉を付け加え

た。伊藤祐一郎県知事はビデオメッセージによりあいさつ。県人会の活動について、「県人移住者の情報収集、親睦活動、子弟の育成などの取り組みなど、鹿児島との交流に大きな役割を果たしていた」と功績を称えた。加えて昭和45(1970)年度から実施している県費留学生制度を100周年を機会に、現在1人の枠を2人に増員することを伝え、「鹿児島および日本とブラジルの絆をより一層深める橋渡しになつていただきたい」と同留

学生への期待を表した。各来賓のあいさつに統一感をもつて、「日伯で一緒にいる」と喜び、「これまでの州議会に付けていた」と言葉を付け加え、記念切手発行の調印式、県知事表彰と県人会

1世紀の節目600人で祝う 母県から副知事、議長ら88人

は、同議会での開催に協力した羽藤ジヨージ聖州議長、園田会長を中心、布袋副知事、池畠議長、川畠隆・県海外移住家族会会長、森博幸鹿児島市長はじめ県内各市長・市議など母県関係者、福島

は、同議会での開催に協力した羽藤ジヨージ聖州議長、園田会長を中心、布袋副知事、池畠議長、川畠隆・県海外移住家族会会長、森博幸鹿児島市長はじめ県内各市長・市議など母県関係者、福島

は、同議会での開催に協力

した。しかし私はよりいい生

活をしている。嬉しい限

り」と喜び、同町出身ら

が開催された。

は、同議会での開催に協力

した。しかし私はよりいい生

活をしている。嬉しい限

り」と喜び、同町出身ら

が開催された